慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	川添美央子著『ホッブズ 人為と自然 : 自由意志論争から政治思想へ』(二〇一〇年、創文社)を読む(合評会と著者による応答)
Sub Title	Kawazoe, Mioko Hobbes : art and nature. from free will controversy to political thought (review essays and response)
Author	堤林, 剣(Tsutsumibayashi, Ken)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2010
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.83, No.10 (2010. 10) ,p.99- 99
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	紹介と批評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20101028-0099

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

紹介と批評

川添美央子著『ホッブズ　人為と自然――自由意志論争から政治思想へ』（二〇一〇年、創文社）を読む（合評会と著者による応答）

去る七月一九日に、鷲見誠一慶應義塾大学名誉教授主催のクオ・ヴァディス（Quo Vadis）政治思想研究会にて、右の著書を扱った合評会が開催された。書評者として中金聡国士舘大学政経学部教授と半澤孝麿東京都立大学名誉教授が順に報告されたのち、著者の川添美央子氏による応答があり、その後フロアも参加して計三時間にもわたる活発な論議が交わされた。以下に掲載する文章は、合評会における報告と応答をもとにお三方が執筆されたものである（但し、半澤氏は当日既に完成原稿を用意されていた）。

なお、著者の川添氏は、現在、聖学院大学政治経済学部の准教授であるが、慶應義塾大学法学部出身で慶應法学会の会員でもあり、二〇〇六年三月には慶應義塾大学法学研究科より法学博士の学位を授与された。ここに書評される著書は、氏の博士論文が土台となっている。

（文責：堤林　剣）